

いのちに差別を許さない人権保障の砦として

ラポール 医療福祉相談室たより

第11号 2013年1月25日

「食べる」ということ・・・

70代女性のAさんは肺炎で入院してきた。肺炎の治療後嚥下障害と診断されて経口摂取はゼリー状のものでないと難しい状態であった。Drからの病状説明では胃ろうを勧められ御主人は同意した。その後、それぞれ別の生活をしている息子さん・娘さんにも理解してもらおうと相談室で御主人も含め、話し合いを行った。娘さんは「食べたいと言っているのに、食べさせないのは可哀そう。胃ろうではなく、食べたい物を食べさせてあげて窒息しても仕方がない」と主張した。御主人は「長く生きて欲しいので、胃ろうの方がいい。胃ろうとなると在宅で介護はできないので施設入所をするしかない。」と。息子さんはそれを受け、「日常的に介護するのは父さんだから、父さんの意見を尊重した方がいいのでは」と。お互いそれぞれの主張をし、最終的には御主人の意見でまとまった。Iさんは意思疎通はしっかりでき、入院中お楽しみのゼリーのみ経口摂取しており、何度か「パンを食べてえから買ってきくれ」と御主人に訴えていた。そのため、家族は施設でも胃ろうと経口摂取併用を希望された。

MSWは胃ろうと経口摂取が併用できる老人保健施設を探したが、対応できる場所は少なく、併用は難しいがこれまでIさんがデイサービスで利用していた施設に入所することとなった。当院ではお楽しみのゼリーをお楽しみにしていたIさんだったので、MSWより施設の相談員に何度か併用希望を伝えたが、職員の体制や対応は難しいと返事が来た。結局、胃ろうのみでご家族に理解してもらい入所となった。

その後、御主人がケアマネージャーに何とか経口摂取をさせたいと相談していたことがわかったため、MSWが施設に出向いた時に経口摂取併用の打診をしたところ、Drの判断で検査実施後可能な能力であれば検討するが、すぐに対応はできない。とのことであった。心残りではあるが施設での対応を期待するしかなかった。

後日、Iさんの入所施設の相談員より「経口摂取の併用を始める予定」と情報があつた。パンは食べることはできないかもしれないが、ゼリー等を口にできるようになれば、Iさんも喜んでいることと思う。Aさんやご家族の思いを考えると私もとても嬉しく思った。

普段私たちは何気なく飲食を楽しんでいるが、食欲があるのに嚥下機能に問題が生じ食べることができないのは、どんなに辛いだろうか…。改めて、患者さんの思いを想像し、日々、飲食を楽しめることに感謝したいと思う。(O)